

広報

環境カウンセラーちば

第44号
 特定非営利活動法人
 環境カウンセラー
 千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
 環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

EC千葉の理事長に就任して

理事長 見並 勝佳

このたび、5月28日の通常総会後の臨時理事会で、國廣 隆紀理事長のあとを受けて理事長に就任いたしました。

わが協議会（EC千葉）は、今年の2月で15周年を迎え、会の会長あるいは理事長（NPO法人登録以降）は、私が6代目です。

15年は昔の元服ですし、義務教育を終えた年に相当します。

次の時代に移ったとも言えます。

わが協議会の歩みは、元理事長土田 茂通氏が、5月の通常総会での講演として、「EC千葉15年間の活動（継続と挑戦の時代）」で、実に明確に説明されました。

その中でご指摘のように、多くの事業が当初からあり、またかなりの事業が継続・発展して実施されてきています。最近の新規事業も数多くあります。

このことは、われわれの旺盛なボランティア精神と心意気の成果と胸を張れます。

反面、私にはこの会の理事長として大変な責任があるとの思いがあります。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

われわれを取り巻く社会に目を向けると、国内外共にそう簡単には解決できない問題が山積しています。

かつてのように答えは「ひとつ」と言う社会ではないようです。

身近な問題に、環境カウンセラーの全国での登録者数が減少傾向にあります。この問題をどうとらえるかは新しい課題です。

また、「新しい公共」による協働事業主体が県から市町村へ移行されています。これまで全県展開を行ってきたわが協議会の対応方法を再構築する必要があります。



一方、内部的には会員の高齢化、会員数の伸び悩み、女性会員が増えない課題もあります。

いろいろな課題はありますが、もっと厳しい条件下で事業推進してきた過去の蓄積があります。

これぞ伝統の力といえます。

課題に果敢な挑戦を行います。

具体的には、

1) 環境教育促進法の改正に伴う「環境教育等支援団体」として、わが協議会が指定を受けることをめざします。県下ではまだ指定された団体はありませんが、この応募への段階で、わが協議会の組織運営の見直しが自ずと行われると考えています。

2) わが協議会を取り巻く外部と内部の双方への情報発信能力を強化します。ホームページの拡充と有効利用等で、積極的情報提供と相互の情報交換による全員参加型の運営をめざします。われわれが行っていること、行おうとしていることを積極的に広報します。

3) 外部団体との交流を図ります。会員の皆様には当協議会だけでなく、地元や他の団体でも活躍している方が数多くおられます。その団体等との協働事業等を検討し実施します。自分たちだけではできない活動へと幅を広げます。

4) 財務体制の強化をめざします。これまでの蓄積依存から自立できる財務体質とするため、EMS事業のさらなる推進、県事業や企業事業への積極的な応募を行うとともに、会員の増加をめざします。

以上には課題と施策がないまぜになっていてまとまりがありませんが、これを行えばたちどころに解決とはならないと認識しています。

皆様と情報と知恵を共有し、ひとつずつ解決していきたいと考えています。

日頃の組織運営では、皆様が楽しんで気楽に参加できる運営や行事をめざします。

忌憚のないご意見をお寄せください。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

第11回通常総会を開催

第11回通常総会を平成25年5月26日(日)に、千葉市民会館の特別会議室において開催しました。

会員総数116名に対し、89名の出席(うち、委任状41名)があり、毎年のことながら会員の皆様のご協力を深く感謝いたします。

議長に國廣 隆紀理事長を選任し、次いで國廣議長の下で書記に種本 利治氏、吉田 昌弘氏を、議事録署名人に戸村 泰氏、宮田 勉氏を選任し、次の議案を審議しました。

- (1) 第1号議案「平成24年度事業報告ならびに決算報告」
- (2) 第2号議案「平成24年度監査報告」
- (3) 第3号議案「平成25年度事業計画案ならびに予算案」
- (4) 第4号議案「役員の変更」

第1号および第3号議案については國廣理事長と服部事務局長が説明し、第2号議案に関しては、吉海監事から「事業の遂行および財産の状況は公正かつ妥当であることを認めた。」との報告をいただきました。

第1～3号の各議案とも質疑はなく、いずれも賛成多数で承認されました。

次に、第4号議案に関し、議長が、現役員任期が5月31日で満了することから定款第14条に基づき新たな理事、監事の選任を行う旨の議案説明を行い、選任方法を諮ったところ議長一任の提案が過半数の賛同を得たので、議長が新たな理事、監事の候補を提案し、賛成挙手多数で承認されました。

(理事) 阿部 邦夫、上口 清彦、北落 謙太郎、國廣 隆紀、鈴木 優子、種本 利治、辻川 毅、戸村 泰、中庭 武雄、橋本 正、服部 達雄、見並 勝佳、宮田 勉、茂利 晃、吉田 昌弘(以上15名)

(監事) 吉海 照直、林正 徳(以上2名)

この総会での選任を受けて、6月1日に臨時理事会を開催し、定款第14条に基づき理事長および副理事長を選任し、さらに運営細則に定める各役職を決定しました。

なお、青木 誠氏、長谷川 三喜雄氏、土田 茂通氏、山口 由富子氏が理事を、廣川 一男氏が監事を退任されました。長年にわたり本協議会の運営・発展にご尽力された各氏の労苦に深謝いたします。

通常総会に続いて「EC千葉設立15周年記念事業」を行いました。

土田 茂通元理事長(平成15～18年度就任)から「EC千葉15年間の活動(継続と挑戦の時代)」と題した総括講演をしていただきました。

続いて、設立時からの継続会員23名に対し國廣理事長から感謝状を贈呈し、本会の発展に尽くされたご努力とご協力に謝意を表しました。

次いで実施しました「総会特別講演(第22回環境セミナー)」では、NPO法人東京城南環境カウンセラー協議会の前理事長である小林 料氏を講師に迎え、「公害・環境の歴史と環境カウンセラー」と題する講演をしていただきました。

平成24年度には、昨年度までの事業を引き継ぎ、「環境セミナー」、「施設見学会」(2回)、「秋季研修会」、「自然観察会」(県内2回、県外1回)、「企業環境セミナー」、「内部監査員養成講座」(5回)を開催するとともに、「エコメッセ2012 in ちば」および千葉市、白井市等での環境イベントに参加しました。

さらに、市原市および南房総市の市民環境大学、木更津工業高等専門学校、県立泉高校、千葉県が開催した浄化槽啓発講習などへの講師派遣、EA21地域事務局千葉県環境財団と連携してのEA21の普及施策、などに取り組み、当協議会の活動・事業機会の拡大を図り、EC千葉の知名度の向上に努めました。

平成25年度においては、大筋では平成24年度の事業活動を継続するも、各活動・事業の中身を深化・進展させ、新理事長の下でEC千葉のさらなる発展を期したいと思います。

これらの事業を推進する上での基本は、会員各位の活動参加であり、会員の有する豊富な知見・社会経験を結集して、会員全員参加の下に着実に成果を出していけるようご協力をお願いします。

(事務局長 服部 達雄)



EC千葉設立時からの継続会員の方々

特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会

[任期：平成25年6月1日～平成27年5月31日]

役員

理事（14名）

上口 清彦	北落 謙太郎	國廣 隆紀	鈴木 優子
種本 利治	辻川 毅	戸村 泰	中庭 武雄
橋本 正	服部 達雄	見並 勝佳	宮田 勉
茂利 晃	吉田 昌弘		

監事（2名）

吉海 照直	林 正徳
-------	------

役職

理事長	見並 勝佳	副理事長	種本 利治
事務局長	服部 達雄	地球温暖化対策センター長	橋本 正
総務部長（兼、会計担当）	橋本 正	副センター長	北落 謙太郎
事業部長	茂利 晃	副センター長	辻川 毅
副部長	宮田 勉	廃棄物対策センター長	宮田 勉
広報部長	國廣 隆紀	副センター長	船橋 孝之
副部長	佐藤 素子	環境学習センター長	中庭 武雄
情報部長	服部 達雄	副センター長	吉田 昌弘
副部長	有馬 富穂	水環境対策センター長	上口 清彦
EMS支援センター長	種本 利治	副センター長	久保田 隆
副センター長	服部 達雄	生物多様性研究会長	見並 勝佳
副センター長	宮田 勉	研究会副会長	鈴木 優子
副センター長	青木 誠	特命担当	戸村 泰
副センター長	吉野 定治		
副センター長	田 博秋		
ECU担当	國廣 隆紀	アドバイザー	大山 長七郎
ECU担当	二宮 恵	アドバイザー	林 正徳
EA21 地域事務局担当	服部 達雄	アドバイザー	小関 光二
		アドバイザー	本間 格
顧問	小角 浩	アドバイザー	倉田 智子
顧問	有馬 富穂	アドバイザー	佐藤 素子
顧問	土田 茂通	アドバイザー	西田 啓作
顧問	荒野 喆也	アドバイザー	野口 久
顧問	二宮 恵	アドバイザー	長谷川 三喜雄
顧問	廣川 一男	アドバイザー	山口 由富子
顧問	古畑 義正	アドバイザー	渡辺 忠明

第23回環境セミナー

(第11回通常総会 特別講演)

「公害・環境の歴史と環境カウンセラー」

講師：環境カウンセラー 小林 料氏

第11回通常総会後の特別講演の講師として、NPO法人東京城南環境カウンセラー協議会の前理事長である小林 料氏をお招きして、次のような内容の講演をしていただいた。

環境省は、「環境カウンセラーとは、環境保全に関する専門的知識や豊富な経験を有し、市民や事業者等の環境保全活動に対する助言（カウンセリング）を行う人材である」としている。

日本環境教育フォーラムの「地球のこども」に、小泉信三氏の「人生において、万卷の書を読むより、優れた人物に一人でも多く会う方がどれだけ勉強になることであろうか」を引用しているが、私もこの言葉に共感し、昨日、武蔵工大（現 東京都市大学）で学生と会ってきた。

最近、環境問題が注目されているが、今までわが国が取り組み、克服してきた公害はその原点であり、今も重要な問題と認識する必要がある。

「公害」の歴史

わが国では、江戸時代に新田や塩田の開発問題で公害が発生し、さらに足尾銅山の鉱害に拡大していった。

外国でも1930年から1940年代にベルギーのミューズ渓谷の大気汚染や米国のロサンゼルス・スモッグやペンシルバニア州のドラノ渓谷で製鉄や亜鉛精錬の大気汚染が発生している。

公害問題への対応

水俣病や四日市ぜんそくが1950年代に発生した。それに対して、東京都の公害防止条例が1949年に地方行政の規制として先行し、その後、1970年に公害国会で公害14法が成立して、環境庁が1971年に発足した。

このような法規制に伴って、企業も大気汚染対策や水質汚染対策等の設備投資を積極的に行った。その成果として、日本の火力発電の熱効率は2010年の比較で、先進国の平均44%に対し、日本は59%と高い技術レベルにあるのは評価に値する。このように、わが国は、国、自治体、企業、市民の努力で公害問題を解決してきた。

世界の動き

ロンドンのスモッグ、酸性雨等の国際的な公害問題から、国際的な環境問題への組織的な枠組みが整備されて、1992年に国連・環境開発会議リオ・サミットが開催された。

わが国でもそれ以降、企業が「環境レポート」を発行し、経営におけるEMSやCSR等の取り組みが積極的に行われるようになってきている。

何故、公害・環境問題が深刻になったか

人類の歴史は、エネルギー利用の歴史である。400年前の原始人は一人・日に2,000kcal程度のエネルギー消費であったが、初期農業人は一人・日に10,000kcalを使用し、産業革命以降は50,000kcal、現在は200,000kcalを消費している。

このように、人類の公害・環境問題はエネルギー利用の増加と人口増加の歴史である。

また、各国のエネルギー消費量と平均寿命をみると、エネルギー消費量の多い国ほど平均寿命が長いという傾向にある。

私が海外で関わった事業の事例として、日本とインドネシアのNGOが協働した事業がある。ジャカルタより車で4時間の西ジャワ州ボゴール県で、260世帯ほどのルイ・ジャマン集落に33kWの小水力発電を導入し、再生可能エネルギー開発に協力した。

最後にSustainable Developmentについて1987年の「Our Common Future」から引用したい。

- ・持続可能な開発とは、未来の世代がneeds（欲求、必要）を満たすための能力を減少させないように、かつ、現代の世代のneedsを満たすようなdevelopment（開発、成長、発展）である。
- ・持続的開発のためには、大気、水、土、生物、その他の自然への好ましくない影響を最小限に抑制し、生態系の全体的な保全を図ることが必要である。

（事業部 茂利 晃）



新たな抱負(新たな任務に就任して)

総務部長・地球温暖化対策センター長

橋本 正

第11回通常総会にて古畑 義正総務部長及び辻川 毅地球温暖化対策センター長のあとを継いで拝命いたしました。非力な身で大任を受けることは身の引き締まる思いです。

総務部については、2年担当させて頂いた会計を引続き継続することを含め、皆様のバックアップの力になれるよう務めてまいります。

地球温暖化対策センターは、環境のメインテーマですが、技術的な課題、地域行政との取組み等に活動のむずかしさがあります。しかし、皆様のお力をいただきながら「行政、事業者、一般市民に対して貢献する EC 千葉」を最終的なミッション(使命)として取り組んでいきたいと考えております。

皆様と共に EC 千葉の発展に努力をいたす所存です。何卒よろしくお願いたします。

水環境対策センター長

上口 清彦

水環境対策センターは昨年まで活動していた浄化槽啓発特別プロジェクトと統合して新たな活動を模索しているところです。

水環境の分野は裾野が広く活動を絞り込むことがむずかしいのであります、当センターは、従来から活動してきました浄化槽講習会(千葉県・浄化槽関連団体主催)の講師を主体に継続して活動をして参ります。

水環境対策センターの前身の水環境対策研究会の時から千葉県との協働事業「浄化槽使用者向け講習会」で積み重ねた実績は大きなものとなっています。

当センターもメンバーの高齢化が進み、若い世代の会員の力が必要です。同時に講師としての技量向上が要求されます。

私たちは千葉県民の生活に密着した活動をめざして水環境の向上に役立てればと考えます。

同時に、水環境対策センターの会員を募集しています。連絡は、上口 090-4573-4716 まで。

生物多様性研究会会長

見並 勝佳

今年度も生物多様性研究会が継続していくことになりました。これまで鈴木 優子さんが会長として2年間努力していただき、生物多様性保全を EC 千葉に根付かせることができました。今後は、そのさらなる進展をめざします。とは言っても、打出の小槌は持ち合わせていません。

研究会では、これまで3年間、丸山川での生物による水質の観察会(調査)を継続して行っています。この観察会は地元の南房総エコネットとの協働事業でもあり、県に結果報告をしています。この観察会は定点観察の意味もあり継続して行いきます。

さらに、他の団体の自然観察会への協働参加や木更津高専等の連携等により開かれた研究会として会員の拡大を目指します。会員の皆様が地元で行っている各種の活動情報をお寄せください。皆様の積極的な会への参画をお願いいたします。門戸はいつでも開いています。

特命担当理事

戸村 泰

この夏、映画「風立ちぬ」を見ました。宮崎 駿監督の新作アニメでゼロ戦飛行機を設計した堀越 二郎の仕事と家庭、戦争と夢の両立に悩みながら、当時世界最高速のゼロ戦を完成させた物語が素晴らしく、中でも主人公の「創造的な仕事は長くて10年」という言葉が強く印象に残りました。

私は現役を退職して NPO の世界に入って今年で11年になります。最近つくづく自分がマンネリになってはいないかと危惧する毎日です。この「創造の10年」は決して年齢を言うのではなく、例えば、NPO という新しい環境に入ったその時から10年が始まるのではと思います。

この度の組織改正で“特命担当理事”を拝命しました。NPO を経験してまだ浅い方々に活動をバトンタッチすることに少しでもお役に立つのが役目と思っています。映画でも上司(先輩)の配慮に満ちた環境の下でこそ創造の10年があると語っています。

開催報告

自然観察会 駒止湿原と裏磐梯をたずねて

過去7回にわたる県外への自然観察会は、本会顧問の小角 浩氏を講師として、自然・歴史等幅広いご指導のもとに開催してきた。

本年は小角 浩氏の紹介で、長く環境省に勤務し、現在の国立公園の環境保護や利用計画等の原点となる環境政策を立案し貢献してこられた渡辺 忠明氏（本会会員）を講師に迎えて、素晴らしい自然観察会を企画し、7月24日から25日にかけて開催した。

参加者は21名（一般参加8名）、25人乗り中型バスで千葉を7:20に出発し、7:40に海浜幕張にて途中乗車の参加者を乗せてスタートした。途中、塩原の道の駅で昼食をとり、田島の道の駅で休憩し、駒止湿原に向かった。

（中庭 武雄 記）

「そのⅠ」駒止湿原・桧枝岐温泉郷の観察(第1日目)

駒止の名の由来は、源平争いの中、後白河法皇の皇子高倉以仁王の逃避行の途上、坂があまりにも急のため歩みを止めたとの説による。近辺には以仁王伝説が多く、植物の名前にも以仁王にちなんだものがある。

湿原は大谷地、白樺谷地、水無谷地が代表的であるが、当日はあいにくの雨であったし、花の鑑賞には時期的にやや遅くお目当てのニッコウキスゲやコオニユリ等の咲き誇る姿は見られず、所々に弱々しく咲いている一輪を見つけたときの感激もひとしおであった。

宿をとったのは桧枝岐温泉郷の「郷」という素朴な心こもった宿で、ずぶ濡れの後の温泉も心地よかった。

また、この村に270年の伝統を受け継ぎ現在も公演を続けている「桧枝岐歌舞伎」がある。むかし伊勢神宮に参拝したおり、江戸で歌舞伎を観劇し、見よう見まねで村へ伝えたというのが始まりで、桧枝岐独特の田舎歌舞伎を村人が今でも引き継いでいる。「桧枝岐歌舞伎」は県指定重要無形民俗文化財に、「桧枝岐の舞台」は国指定重要有形民俗文化財に指定されている。

「そのⅡ」2グループに分かれての自然観察(第2日目)

・Aグループ（準健脚組6名 御池・ミニ尾瀬公園）

シャトルバスの出発点御池付近には、御池田代等3つの湿原があり、探索し始めたが、木道が見つからず、おまけに雨が降りはじめ、滑りやすく、勇気ある撤退を決断し、代わりに知性派グループらしく常設展示館「ブナの森ミュージアム」に入った。

ここでは、広域尾瀬地区のジオラマ展示があり、ランプ点灯によるガイドにより、広域尾瀬地区の地理的概念が立体的に一挙に理解できた。また、桧枝岐村近に

ある「ミニ尾瀬公園」は、尾瀬沼まで行く時間がない人に尾瀬を体感できるように木道や遊歩道が整備されている。公園には、尾瀬書美術館「思郷館」と尾瀬写真美術館があるが、後者は必見の価値がある。尾瀬の三条の滝を1・2階吹き抜けにして展示しているのは圧巻であるし、山岳や湿地、朝日や夕日との組み合わせは、自然というのはこんなに美しいものかと思わず感動する多くの写真が展示されている。また、桧枝岐温泉郷の忘れられない味覚として山人(ヤモード)料理と呼ばれる郷土料理がある。それらは「裁ちそば」「はっとう」「山椒魚」である。「はっとう」の由来は、高貴な人がこれを食し、こんなうまいものを村人が食べることを禁止(ご法度)したことによる。さらに、最近手に入りにくくなった「生きている化石」といわれる「山椒魚」がこの地の珍味の代表である。散々探して「山椒魚の燻製」を手に入れることができたが、外観は全くヤモリの黒焼きであり、食するにはかなりの勇気が必要であったが文字通り忘れ得ぬ珍味であった。

（荒野 結也 記）

・Bグループ（健脚組15名 尾瀬沼）

Bグループは、沼山峠から尾瀬沼の長蔵小屋までの往復を渡辺 忠明講師の熱心なご指導をいただき、予定時間内に素晴らしい観察ができた。

沼山峠付近では、亜高山の針葉樹林帯で見られる倒木更新を観察し、さらに遥かに見える尾瀬沼に向かい木道をニッコウキスゲの群落を楽しみに足を進めた。

長蔵小屋近くで大きい群落を見つけ全員で満足し、写真に収まった。渡辺 忠明講師の話によると、鹿の食害がひどく、夜も近づく鹿を追い払ってわずかな群落を守れていることが分かった。

地球温暖化の影響が、生態系にこのように深刻な影響を与えていることを実感する素晴らしい観察会であった。

帰路は、松戸駅前及び千葉駅前それぞれ下車し、けが人もなく、渡辺 忠明講師の熱心なご指導に感謝し、家路についた。

（中庭 武雄 記）



沼山峠にて

開催報告

自然観察会 3年目の丸山川の観察

「わーっ、気持ち良い！」と川に入って生き物を探す親子連れ。「地元にもなかなか、こんなことはできないし、調べ方も知らなかった」とのこと。

7月28日、今年も南房総エコネット(服部 礼二代表)との協働で南房総市チャレンジ事業・丸山川の生き物と水質調べ観察会を行いました。

服部 礼二代表から開催の目的などの説明後、環境省の川の生き物と水質調べマニュアルに沿って、調査地点の水温、底質、川幅、水深、流速、水の色、透視度他調べてから、いよいよ川に入ります。人海作戦でたくさんの生き物が集まりました。さらに私たち環境カウンセラーは、目の細かい網で一般の方が見逃してしまう、小さな指標生物探しに専念しました。

これらをバケツやバット、拡大カップなどで分類し(飛び出すものや、食うものと食われるものを分けておかないと観察が始まった時にはいなくなってしまう)、昨年以上の生き物の種、個体数が出揃ったところで、生き物の解説、指標生物による水質の階級を判定する方法を紹介しました。全員参加でプロセスを共有し、たどりついた判定結果は、今年も水質階級Ⅰの「きれいな水」でした。この水質、水辺の環境だから、こんな生き物がここで暮らしていけること、同じ種類でも小さいのから成体まで世代交代ができていて持続可能な生息地、繁殖地でもあることが分かりました。

来年もこれらの生き物を確かめながら、環境を共有する私たちも健やかに生きていけますように。

子供たちは生物資源という見方ではなく、生きものの命と向き合い、捕まえたサワガニ、ヘビトンボ、ハリガネムシなどを川に戻しました。

炎天下、時間との勝負でやらなければならない観察会で、生き物の名前や観察のみに止まらず、環境の評価、活動の普及まで参加された環境カウンセラーの皆様もお疲れさまでした。

(生物多様性研究会副会長 鈴木 優子)



開催報告

大多喜町面白峡発電所見学会

千葉県大多喜町では、大正から昭和にかけて町内3か所で稼働していた小水力発電設備のうち、面白峡発電所(おもじろきょうはつでんしょ)を復活することとされ、この事業を提案したN社に発注され、工事が進められている。

そこで、NPO環境カウンセラー千葉県協議会(EC千葉)及びNPOサポート技術士センター(NPO-SPEC)で、協力できることがあれば参画させていただくべく、両NPOからの22名が、発電所の工事現場、取水口及び栗又の滝を見学した。

1. 事業計画について

面白峡発電所は、養老川の上流、栗又の滝のわずか上流で取水し、現在も水道用に利用している既存の約2,000mの隧道を利用できるので、工事費が少ない(1.365億円)ため、着手したとのこと。

すでに1月から着工しており10月にはあらかじめの工事が終わり、12月末には引渡しの予定。水量11,000ton/日、落差43.5m、最大発電能力は130kW(平均80kW)。

2. これからの計画について

大多喜町では、地球温暖化対策、資源の有効活用として活用するだけでなく、観光資源として地域の活性化につなげる計画である。

大多喜町は、リース会社と10年契約を結び、自ら運転し、保守はN社に委託するとのことである。

栗又の滝も見物して、風光も明媚であり、房総の自然環境を見つめて心の安らぎを感じるにも好適である。

NPOとして、技術的な支援のみならず、大正時代の設備も残ってロマンに満ちており、環境学習の場及び観光資源としてのPRなどの協力をさせていただくこともできそうある。

また、起伏の多い南房総の他の市町村への小水力発電の設置の展開推進も考えられる。

(理事 國廣 隆紀)



開催報告

第12回環境公開講座

8月31日(土)、千葉市民会館の特別会議室2にて、「極地の氷から地球温暖化の将来を探る」と題して、国立極地研究所 前所長 理学博士 藤井 理行特任教授に講演していただきました。

藤井 理行先生は、今年1月29日のNHKクローズアップ現代「南極大陸が融ける?・・・」にも出演されましたが、この講座では、先生の永年の極地研究での体験に基づく、極寒の地ならではの諸現象をお話しいただくとともに、番組ではお話しされなかった、「氷河期のサイクル、南極の氷の下の湖、海洋大循環、棚氷の危機」などについても説明していただきました。

この分野では、グリーンランドの氷床研究により、過去の地球環境情報をたくさん得ることができて、研究が進みましたが、ドームふじ基地という氷床研究には絶好の基地を得た日本が、精度の高い氷床コア調査技術を駆使して、さらに新しい情報を得つつあることが分かりました。

そして改めて、地球大気中で増加し続ける二酸化炭素の影響の複雑さを知り、地球温暖化対策活動の必要性を感じました。

講演の中では、参加者には南極の氷を水の中に入れて氷が融けるときに発する南極の古代に封じ込められた大気の気泡がはじける音を聞いていただきました。

また、南極の内陸調査時に着用する防寒着を展示して、76名の参加者に極寒の地の厳しさも感じていただきました。

なお、この南極の氷を入れて、参加者に回す容器には、千葉県で唯一、リユース食器レンタルに取り組んでいる「ワーカーズコレクティブ風車」様の食器を使用いたしました。今年、発表された第三次循環型社会形成推進基本計画で一番に取り上げられている「リデュース・リユース」の実践にも取り組んでいきます。

(事業部副部長・廃棄物対策センター長 宮田 勉)



講師派遣

木更津高専への出張授業

今年で5年目を迎える木更津高専との出張授業は、幅広い知識と経験を持っているEC千葉の講師陣がそろっていることもあり、毎年、高専の先生方や学生から、好評を得ている。

対象は、平成25年度も1年生42名で、「環境都市工学概論I」の科目で実施した。

今年度は、「緑のカーテンで涼しい町づくり」をテーマとして、鈴木 優子氏を講師として、具体的なデータをもとに、分かりやすいスライドを用いて授業が行われた。

例年2テーマであったが、今年度は1テーマとし、考える時間をとるようにした。

1年生が対象なので、「緑のカーテン」に親しみやすく、ビジュアルに、「涼しいまちづくり」への発展を考える参加型学習を取り入れた。

講義の内容は、下記のとおり。

- 1.緑のカーテンとは? 事例の紹介
- 2.緑のカーテンの作り方と利用
- 3.参加型学習:緑のカーテンがもたらすもの、涼しいまちづくりへの工夫
- 4.質疑応答

学生達にポストイットにそれぞれ、「涼しいまちづくりへの工夫」などを書いてもらい、学生達が自ら整理し、発表してもらった時間を設けるなど、効果的な授業となった。

学生達は、熱心に受講され、アイデアの創出の点でも有意義であった。

最後のまとめも理解度の高さと前向きな気持ちを感じられ、この若者たちの明日に希望が持てる出張授業であった。

(環境学習センター副センター長 吉田 昌弘)



開催報告 エコアクション21普及セミナー

<中小事業者の経営に役立つ環境経営システム説明会>

NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会は、千葉商工会議所及びエコアクション21地域事務局千葉県環境財団との共催で、しかも多くの産業団体や千葉県の後援を戴いて、エコアクション21 (EA21) の普及セミナーを7月26日に千葉商工会議所で開催した。

参加者は48人であった。このセミナーは、EA21認証・登録制度が発足した翌年の2005年度から毎年開催されており、今年で9年目になる。

講演は、先ず、当協議会のEMS支援センター副センター長の田 博秋氏が「事業経営に役立つEA21の取組」と題して、環境問題の現状と環境経営の必要性、EA21の概要と取組方法、取組のメリットなどを解説した。

次いで「事例紹介」として齋藤会計事務所様 (八千代市) の森 小百合氏及び大金興業様 (千葉市) の大野光政氏からそれぞれの素晴らしい取組内容やこれから取組まれる事業者への貴重なご意見が披露された。

最後に地域事務局員の服部 達雄氏が「EA21認証・登録の手続きとそのポイント」を説明した。

講演の後に、個別相談の時間を設けた。今回は1社から相談があり、認証登録に必要な書類等の具体的な段取りに関する質問を受けて、当協議会の宮田 勉氏が対応させていただいた。

増大する異常気象の原因と考えられる温暖化への対策、また、エネルギーほか各種資源コストが上昇する中で、わが国の中小事業者にとっても環境問題への対応は大きな課題である。

企業は、EA21に取り組むことで、自社の事業活動を発展させながら深刻化する環境問題への対応が可能になる。さらに、そのEA21活動を認証登録することで、社会的責任を全うする企業としての信頼性が高まることがこのセミナーで力説された。

(EMS支援センター幹事 福井 信行)
(EMS支援センター長 種本 利治)



開催報告・開催案内 内部監査員養成講座

(ISO9001、ISO14001)

ISO9001 内部監査員養成講座は2007年度から毎年2回、ISO14001 内部監査員養成講座は2005年度から毎年2回開催している。主催者は、千葉商工会議所と当協議会であり、開催場所は千葉商工会議所の第二ホールになっている。

この講座は、ISO取組の意義と効果、ISO規格内容、内部監査の進め方、内部監査員に求められる力量などの解説を行った後、内部監査ワークショップを実施している。実践的な講座になっており、受講者から好評を得ている。受講対象者は、内部監査員候補者ばかりでなく、力量向上を目指す内部監査担当者、管理責任者、事務局の方にもお奨めしている。講座終了後の理解度試験に合格した方には修了証を発行している。

受講者は、主に千葉県のISOの認証登録組織に所属している方が中心だが、繰り返し参加される組織が多い。

以下、2013年度の実績と今後の予定をまとめる。

1. ISO9001 内部監査員養成講座

6月13・14日 (木・金) に通算で第14回目の講座を開催した。受講者は20人で、講師は当協議会の吉野定治氏と矢野和敏氏が務めた。受講者は全員が1回目の理解度試験に合格して、修了証を受け取った。第15回目は9月12・13日 (木・金) に予定している。

2. ISO14001 内部監査員養成講座

7月11・12日 (木・金) に通算で第18回目の講座を開催した。受講者は25人で、講師は当協議会の西田啓作氏と青木誠氏が務めた。受講者は全員が1回目の理解度試験に合格して、修了証を受け取った。第19回目は11月14・15日 (木・金) に予定している。

(EMS支援センター長 種本 利治)



開催報告

浄化槽の保守点検と清掃及びし尿処理場の
見学会

千葉県主催、浄化槽使用者向け講習会には、今年度も講師派遣の依頼がありました。

水環境対策センターのメンバーは、水環境を専門にしていますが、浄化槽の進歩も著しく講師としての技量向上は必須です。

このたびは浄化槽の保守点検・清掃作業及びし尿処理場を見学することで、講師として最新技術、技能を初心の戻って学ぶ機会といたしました。

参加者10名は、9月10日、東金市の㈱新興ウオターマネジメント工業殿の協力で、実地見学をしました。

特に「浄化槽水リサイクル車」と担体浄化槽について、参加者は興味津々でした。

リサイクル車（バキューム車）は、客先で浄化槽汚泥をその場で処理して有効な微生物を残して透視度1,000mmとした処理水を浄化槽に戻す方式であるため浄化槽の立ち上がり早く、さらに土圧による事故防止に最大のメリットがあり、その性能のすばらしさに一同納得しました。

今回の見学会は、今後の講習会に生かせるものとなりました。

（水環境対策センター長 上口 清彦）

開催案内 第16回企業環境セミナー

＜環境マネジメントシステムの動向と有益な活用＞

第16回企業環境セミナーを2013年10月18日(金)に千葉商工会議所第一ホールで開催する予定である。

第1部では、公益財団法人日本適合性認定協会認定審査員の森川 高志氏から「ISO14001改訂の動向及び新たにEMS認証機関に適用される認定の補足基準について」と題したお話を伺う。

第2部では、(1)リコージャパン株式会社千葉支社（オフィス向け画像機器などの製造業）の半澤 毅氏から「オフィス環境改革実践事例のご紹介」と、(2)千葉大学法経学部2年生で同大学環境ISO学生委員会の植草 太郎氏から「千葉大学における学生主体の環境マネジメント」のお話をいただく予定である。

第3部では、当協議会顧問でISO審査員の荒野 詰也氏に「マネジメントシステムの「見える化 PDCA」による企業の活性化」のお話を願っている。

いずれも興味深い話ばかりなので、多くの皆さんの受講をお願いしたい。

（EMS支援センター長 種本 利治）

出展予定

第18回エコメッセ2013 in ちば

9月28日(土)に幕張メッセ国際会議場で開催される第18回エコメッセ2013 in ちばに今年も出展いたします。

今年は、「環境について調べてみよう」をEC千葉の共通コンセプトとし、EC千葉の活動を紹介いたします。

EC千葉の全体紹介と「川の生き物と水質調べ」、「海辺の貝調べ」、「浄化槽教育」といった活動紹介のポスター展示を行います。

またあわせて、「呼気中の二酸化炭素濃度を測ってみよう」として、CO₂メーターによる二酸化炭素の測定体験を行います。

また今年は新たに、ブースに来られた来場者には、今年の夏、会員がグリーンカーテンに取り組み、採取した各種種子の配布を行います。当日の持ち込みは大歓迎です。

会員皆様のご協力をお願いいたします。

（事業部長 茂利晃）

出展予定

地球環境パートナーシッププラザ展示会

NPO 法人環境カウンセラー全国連合会（ECU）が、渋谷の国連大学1階展示場を借用できることになり、ECの活動を紹介します。

日時：9月17日(火)～28日(土) ただし(日)(月)休み
場所：国連大学1階地球環境パートナーシップ展示場

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

- (1) ポスター展示：EC千葉、福島EC、杉並EC、城南EC、城北EC、武蔵・多摩EC
- (2) ものづくり体験コーナー：バッタづくり、どんぐりごま、木工ペンダント
- (3) 相談コーナー：環境カウンセラー登録、環境教育インストラクター他、もろもろ環境相談
- (4) セミナーコーナー：
 - ① 「最近の環境問題を考える集い」
9月20日(金)14～16時
 - ② 「漫画で見るグリーンコンシューマー10原則」
9月18日(水)14～16時
 - ③ 「エコ手芸活動セミナー」
9月24日(火)13～16時
- (5) 環境カウンセラー関東ブロック交流会
9月21日(土)14:30～16:30
ポスターなどを見ながら交流しましょう。
千葉からは遠いですが、ぜひご参加願います。
（顧問 ECU 担当（ECU 理事）二宮 恵）

新入会員紹介

北落 謙太郎 (きたおち けんたろう)

千葉市

EC千葉に参加して2年目に入りました。毎月第一日曜日をほぼ1日使う、新しい日課の始まりでした。私にとって環境は、環境マネジメントシステム審査員としての活動が中心であり、埼玉大学大学院の「国際環境規格」の非常勤講師もその一つです。今回、温暖化対策センターの副センター長就任は、今年は、おまえも何かやれという叱咤と受け止めています。

皆様のご助言、ご指導をお願いいたします。

松野 博 (まつの ひろし)

市原市

昨年からEC千葉にお世話になっています。

現在、中小企業のEA21システム構築コンサルをしています。お客様には認証のための活動だけではなく、社員の皆さんの育成や地域の方々に喜ばれる環境活動を提案しています。EC千葉の活動事例も参考にし、コンサル活動を通して地域の環境保全に貢献したいと思っています。いずれは部会のお手伝いもさせていただくつもりです。どうぞよろしくをお願いいたします。

潟端 尊史 (かたはた たかふみ)

八街市

EC千葉に入会させていただき、ありがとうございます。浅学菲才ではありますが、協議会の発展やEMS普及に少しでも貢献するよう努めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

現在はISO14001審査員補の資格しかありませんが、今後は、ISO9001審査員補、EA21審査員の資格取得も挑戦したいと考えています。諸先輩方の御指導、御鞭撻の程、よろしくをお願いいたします。

阿部 俊一 (あべ しゅんいち)

埼玉県春日部市

はじめまして。元々エンジニアリング会社に勤務して公害防止プラントなどを建設していましたが、転籍してインキ製造会社に移りました。工場長などを歴任しながら廃棄物ゼロ(ゼロエミ)を達成しました。

また4年半、マレーシアに駐在し、現地ではパーム油(ヤシ油)を採るために計画的に植林をしていることを知り、ボルネオ島での熱帯雨林に圧倒されました。

退職後、2011年に環境カウンセラーとEA21審査人に合格しました。

小原 正人 (おはら まさと)

印旛郡栄町

3月からEC千葉に参加させていただいています。

私は、サカタインクス(株)という印刷用インキのメーカーにて、生産設備のエンジニアリング部門の仕事一筋に従事し、引き続き現在も担当しております。

昨年、EA21審査人資格を取り、勉強中です。

環境に関しては何も実績・経験はありませんが、これから勉強し今までの経験を少しでも生かせればと考えています。よろしくご指導をお願いいたします。

櫻井 哲 (さくらい さとし)

船橋市

この度、知人の紹介により、EC千葉に参加させていただくこととなりました。

本業では現在、水質、土壌、大気などを中心とした分析業に従事しておりますが、以前はこの他にも水質管理や排水処理システムの試験研究などもやってきました。いわゆるグリーン・イシュー(自然環境問題)分野にも興味があり、生業とは別視点から環境について再考できればと考えています。

志澤 達司 (しざわ たつじ)

市原市

1月に還暦を迎え3月末に退職した志澤です。社会貢献できることはないかと考え、EC千葉に入会しました。

退職後に必要なものは「キョウイク(今日行くところがある)」と「キョウヨウ(今日用事がある)」とのことですが、EC千葉の皆様から環境についての教育と教養をつけていただくと共に、自らも勉強して少しでも社会貢献をしていきたいと考えています。

よろしくをお願いいたします。

山本 忠 (やまもと まこと)

千葉市

6月から環境カウンセラー千葉県協議会に入れさせていただきました。環境学習の分野で皆様のご指導を仰ぎながら、活動したいと考えております。

現在、私立大学で地球温暖化の講義を担当する他、浦安市民大学で環境コースのコーディネーターをしています。環境を始めて日が浅いので、屋外実習や特定領域での実地経験がありません。

先輩の皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

受賞おめでとうございます！！

ECU 理事長 環境保全功労者表彰

6月28日のNPO環境カウンセラー全国連合会(ECU)の通常総会で、つぎの3氏が表彰されました。

3氏はEC千葉設立当初からの会員で、これまでのご功労、ご功績に感謝し、今後の益々のご健勝をお祈りします。まことにありがとうございます。

○環境保全功労者表彰

倉田 智子氏 当協議会アドバイザー

佐藤 素子氏 当協議会アドバイザー、広報部副部長

○環境保全功績者表彰

鈴木 優子氏 当協議会理事、生物多様性研究会副会長

倉田 智子氏は、初代環境学習センター長としてその立ち上げのほか広報部の副部長及び部長として活躍され、とくにEC千葉設立10周年記念誌の編纂には中心的役割を果たされました。またECUでは数多くの環境学習などの事業に貢献されてきました。

佐藤 素子氏は、優れた広報力とセンスにより、初代広報部長としてその広報の発行の枠組みを設定され、現在も広報部副部長として活躍されています。また生物多様性研究会の立ち上げにもご尽力いただきました。

鈴木 優子氏は環境学習センターの各種事業に尽力いただき、2011年からは生物多様性研究会の会長としてその立ち上げに尽力され、水辺の自然観察などの事業を通じて、みちすじをつけていただきました。またECUの今年のEC研修会でも活躍していただきました。

総務部からのお知らせ

2013年3月4日～2013年8月4日の間、当協議会(EC千葉)への寄付金として、つぎの方々がくださいました。

稲葉 信克様 1,000円、 戸村 泰様 37,000円

橋本 正様 20,000円

ありがとうございました。

ECU便り

(ECU:NPO環境カウンセラー全国連合会)

1. 平成25年度ECU通常総会開催

ECUの通常総会が6月28日に開催されました。

続いて特別講演として、「環境及びエミッション測定機器等の最近の話題」と題し、(株)堀場製作所 常務執行役員・開発本部長 足立 正之氏の講演がありました。

2. 第4回環境カウンセラー全国交流会の開催(案内)

ECUは、3年前から年に1度、全国の環境カウンセラーが集う全国交流会を開催しています。今年は次のように千葉で開催することとなりました。

多くの環境カウンセラーが交流されますようご案内申し上げます。

1)日時 10月12日(土)13:00～18:00

2)場所 ホテルプラザ菜の花

千葉市中央区長洲1-8-1 電話 043-222-8271

(千葉県庁前 千葉モノレールの「県庁前下車1分」)

3)講演会(13:00～15:45)

基調講演

「昨今のエネルギー事情とエネルギーおよび環境への取り組み」

講師 千葉大学大学院人文社会科学部研究科

教授 倉阪 秀史氏

講演

「千葉での再生可能エネルギーの普及活動」

講師 EC千葉 理事 國廣 隆紀氏

4)懇親会(16:00～18:00)

参加費 5,000円(懇親会に不参加の場合は、2,500円)

参加申し込みは、FAX 0438-63-6851

E-Mail pxz04373@nifty.ne.jp

訃報

故 阿部 邦夫殿

6月19日に逝去されました。

生前のご厚誼に感謝し、ご冥福をお祈りします。

広報 環境カウンセラーちば 第44号 (発行日 2013年9月14日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会(発行責任者：國廣 隆紀 会員：118名)

URL：<http://ecchiba.sakura.ne.jp/>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方(郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 ec_chiba_exec@yahoo.co.jp(各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692(加入者名：NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会)会費はこちらに！

編集：広報部 國廣 隆紀・佐藤 素子・二宮 恵・松本 源寿

E-Mail pxz04373@nifty.ne.jp(記事寄稿先)

再生紙を使っています。